

令和5年度 教育方法改善のための 自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙「令和5年度 授業評価アンケート 実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・ 学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会 教養教育部会
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部教務委員会
情報学部	情報学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学部教務委員会 社会情報学研究科大学院学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科
理工学部 理工学府	教務委員会（理工学部生、理工学府生）

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・ 学生支援機構	全学部生の必修科目である「学びのリテラシー（1）（2）」と「データ・サイエンス」について、教務システムを利用してアンケートを実施した。
共同教育学部 教育学研究科	学部1から4年生並びに大学院1・2年生に対して、学部専門教育科目等を対象に、WEB（教務システム）を利用して前期・後期の2回アンケートを実施した。
情報学部	教務システムのアンケート機能を使用したWEBアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWebアンケート
医学部 医学科	1-6年次の各科目についてアンケートを実施した。また、4年次～6年次の臨床実習（必修）（選択）においては、学生による診療科ごとの実習評価を実施した。アンケートはオンラインで実施した。
医学部 保健学科	平成26年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で授業評価アンケートを実施していたが、平成27年度からは、教務システムのアンケート機能を活用したWEBによるオンラインシステムで授業評価アンケートを実施している。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。

学部等	実施方法
医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、比較的履修者の多い博士前期課程の3科目において、WEBアンケートを行った。 授業実施中に、教員が学生にアンケートへの回答を依頼するとともに、事務からも履修者へ回答依頼メールを送信し回答を促した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・ 学生支援機構	<p>【実施概要】 アンケートの実施方法や設問項目について大学教育センター 学部教務委員会 教養教育部会において審議のうえ実施を決定した。各アンケート結果については全学の教務委員会で検討するとともに、各授業担当教員にフィードバックした。 3つのアンケートとも、結果は全体的に肯定的な回答であった。</p>
	<p>【課題】 全体的に肯定的ではあったが、学びのリテラシー（1）のアンケート（資料①）において、以下の設問では否定的な意見があった。 ・コミュニケーション能力を身につけることができた（質問2） ・講義での討論は活発であった（質問8） ・教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった（質問9）</p>
	<p>【具体的な改善事例】 学生に対する前期の授業評価アンケートとともに、教員に対しても授業改善についてのアンケートを実施している（資料④）。当該授業改善アンケートの結果を教員にフィードバックする際に、授業改善を試みた点をグッドプラクティスとして周知している。結果は教務委員会で検討するとともに、各教員においても改善方法等の検討を行っている。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 ① 学部学生の授業満足度では、9割以上の学生が、「満足している」「どちらかという満足している。」と肯定的な評価をしている。 ② 学部において「主体的、対話的で深い学びになった」と回答した学生が約8割5分おり、前年度に引き続き、授業への取り組みに関する振り返りは高い数字となった。 ③ 大学院学生の総合評価で「優れている」の割合は、全コース平均で7割であり、「やや優れている」まで含めると、9割5分以上が肯定的評価であった。また、「この授業で特によかった点、特に改善すべき点」については、いずれのコースもほぼ全ての項目について「特によかった」または「現状でよい」が9割を超えており、全体として肯定的に評価されている。</p>
	<p>【課題】</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>①学部の授業において、全体の1割に満たない割合ではあるが、「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において、改善すべきと評価された授業がある。</p> <p>② 学部の授業において、シラバスを「参照しなかった」「あまり参照しなかった」と回答した学生が合わせて約5割いる。</p> <p>③ 大学院の授業において、いずれのコースも「特に改善すべき点」は見当たらなかったが、今後とも継続して自己点検を行っていくことが必要と思われる。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>① グループワークを積極的に取り入れ、学生同士で議論や意見共有を行い、理解を深める機会を設けるようにした。</p> <p>② 授業内容について、課題や構成の見直し等を行い、学生により分かりやすく伝わるように改善を試みた。</p> <p>③ メディア授業では遠隔教室の学生への対応が不十分にならないよう、双方で意見を出し合う等の配慮をした。</p>
情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>情報学部は令和3年度に新設された学部であるため、対象は1～3年次生となる。</p> <p>3年次開講科目として初開講の科目も多かったが、「この授業を4段階で評価してください」との項目では、昨年度と同様に、前期・後期ともに9割以上の学生が「優れている」又は「やや優れている」と回答しており、総じて高い評価であった。</p> <p>実施に当たっては、教務係から掲示板への掲示、教務システムのお知らせへの掲載及び複数回にわたり回答を呼びかけるメッセージを送信した。また、授業担当教員（非常勤講師含む）に対し、授業時間内に時間をとるなどして回答に協力してもらうよう呼びかけた。併せて、前年度から集中講義以外の科目の回答期限を前倒しすることで早期の回答を促している。</p> <p>【課題】</p> <p>「予習・復習に週何時間くらいを費やしたか」との項目では、「1時間未満」又は「予習・復習はしなかった」と回答した学生が前期・後期ともに約6割いる。令和4年度は、授業の課題に取り組む時間を含めずに回答している可能性があったことから、令和5年度は「課題に取り組んだ時間も含みます」と明示したのだが、大きな数値の変化はなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>シラバス作成の際に、予習範囲を明確にするよう教員へ周知徹底する。</p> <p>なお、令和5年度から融合型PBL科目（3年次必修のアクティブラーニング科目。前期と後期にそれぞれ2単位の修得を要する）が開講されたことで、授業時間外にインタビュー、映像の製作、チームでの検討の機会などが増えており、未だ実態を把握できていない可能性があることから、「課題に取り組んだ時間のほか、授業時間外に実施した取材やグループワークなどの時間も含む」ことが分かるように、再度アンケートの文言を変更することとした。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>令和3年度に情報学部が新設され、社会情報学部は学生募集を停止したため、対象は卒業を待つ4年生のみとなる。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>情報学部科目で読替を行っている科目が多く、社会情報学部独自科目の提供数が少ないことや、順調に単位を修得し卒業研究を修得するのみとなる学生も多くいたこともあってか、回答者は前期2名のみでありアンケートとしての機能をほぼ有しない結果となった。</p> <p>社会情報学研究科では、「授業内容は興味を持てるものでしたか」等の全項目で、前期・後期ともに90%以上の大学院生が肯定的な回答をしている。</p> <p>【課題】 社会情報学部においては、高年次における回答率の低さが目立った。 社会情報学研究科においては特になし。</p> <p>【具体的な改善事例】 社会情報学部においては、令和5年度に最後の正規課程の4年生が卒業し、令和6年度以降は過年度生16名を残すのみとなる。社会情報学部独自科目の提供数が減少する可能性もあるが、履修者があればこれまで同様に複数の方法で回答を依頼し、回答数を得られるよう努める。 社会情報学研究科において、令和5年度のアンケートから「予習・復習に週何時間くらいを費やしたか」との項目に「課題に取り組んだ時間も含む」ことを記載し、より正確な実態を明らかにすることとした。その結果、「2時間未満」又は「予習・復習はしなかった」と回答した学生が、前期に64%、後期に23%となった。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 臨床実習における学生からの診療科評価の回答数は1,010件であった。前年度は1,372件だったため減少している。全質問項目の回答は、最も満足度の高い「A」の評価が臨床実習1（旧 臨床実習（必修））で平均71%であり、臨床実習（選択）で平均80%（学内施設84%、学外施設77%）だった。全体的に肯定的な評価と考えられた。中でも臨床実習（選択）で特に学内施設での満足度が高かった。 臨床実習（選択）の満足度が高い理由として、学生自身が希望する診療科・施設で実習を行っていたことが考えられる。その中で学内施設の方が学外施設よりも満足度が高かったこと理由は、項目毎の差をみると、病歴聴取やカルテ記載の指導において大きな差が認められていたことから、学内施設では診療の基本の指導が充実していたと考えられる。学生からの自由記載意見でも、丁寧に指導していただいたという感謝のコメントが多かった。一方、学外施設実習の自由記載意見では、流行性疾患などの様々な疾患を経験することが出来た、というコメントが見られた。</p> <p>【課題】 前年度までの結果も合わせて分析すると、臨床実習（選択）において学内施設は少数症例を丁寧に、学外施設は多数・多様な症例の診療を経験するという性質が学生に評価されているといえる。 今後の課題としては、臨床実習協力施設連絡会等の学外実習施設との交流の機会を確実に捉えて、臨床実習に関する情報共有や教育方法の議論を行い、学外施設実習での学生の満足度をさらに高めていくことがあげられる。 また、アンケート回答率も課題である。オリエンテーションや授業などで学生への周知を徹底して回答率の向上を図りたい。</p> <p>【具体的な改善事例】</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>令和4年度からの改善点の1つとして、医系の人間学があげられる。この科目では授業内容に対する評価は高かったが課題や評価に対する不満が多かった。これを受けてカリキュラム検討委員会や教務部会で議論が行われ、課題や評価方法の見直しが行われた。その結果、令和5年度では評価基準の明確さの評価が高まった。</p> <p>臨床実習1（旧 臨床実習（必修））では、内科センターの実習で診療科を選択できない点について学生からの不満の声があったため、令和5年度に導入した新カリキュラムでは内科センターの診療科を学生が選択できる仕組みを整えた。今後はこれに対する意見も取り入れてより満足度の高い実習を目指す。</p> <p>臨床実習（選択）の学内施設の実習の満足度の向上については、臨床実習運営委員会などで学内各診療科間での実習の情報共有を頻回に行ったり、臨床実習で学生からの評価の高い実習の指導医が教員に対してFDを行ったりした点が貢献した可能性がある。</p>
医学部 保健学科	<p>【実施概要】 令和5年度は保健学科会議等で教務システムにてアンケート実施中であることを周知し、科目担当教員から学生に対してアンケートに回答するよう依頼を行い、各教員からも授業時に口頭で周知するなど、保健学科全体として回答率の向上に努めているところだが、令和5年度後期の回答率は40.9%となり、年々回答率が低下してきている。 アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、優れているが占める率は、令和5年度前期70.0%、後期70.9%との結果になっており、概ね高い評価を得た。</p> <p>【課題】 授業に対する評価は概ね高いものの、年々アンケート回答率が低下してきていることから、回答率向上に向けた取り組みの強化が必要な状況になっている。</p> <p>【具体的な改善事例】 教員は学生の授業評価アンケート結果を閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果を公開していることを認識し、更なる授業の改善に努めている。 また、アンケート回答率の改善に関しては、引き続き各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなどにより、保健学科全体として向上に努める。</p>
医学系研究科	<p>【実施概要】 授業の全体的な評価は、前期は「非常に良い」が72.0%、「良い」が26.0%、後期は「非常に良い」が90.5%、「良い」が7.1%となっており、概ね9割以上が肯定的な意見となっている。</p> <p>【課題】 アンケートの回答数について、昨年と比較すると回答率が向上しているが、学生数全体で見ると、決して高いものとはいえない。</p> <p>【具体的な改善事例】 回答率を増加させるため、複数回にわたって回答を呼びかける。 前年度からの改善点は、自由記述の回答率を増加させるため、回答依頼の際に以下の文面を加えたところ、自由記述の回答数が増えた。 ・回答は匿名となっており、個人が特定されることはなく回答内容が成績評価に影響することはありませんので、忌憚なく回答してください。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
保健学研究科	<p>【実施概要】 前年度の課題であった回答率については、令和5年度は教員と事務の呼びかけにより、令和4年度の62%から78%と改善された。 アンケート結果について、「授業に興味を持てたか」という問いに5段階評価で4以上の回答が90%（39人中35人）、各科目の総合評価は5段階評価で4以上の回答が92%（39人中36人）と概ね肯定的であった。</p>
	<p>【課題】 「授業の内容は理解できるものであったか」という問いに39人中12人が5段階評価で3以下の回答であり、31%の学生の理解度が低いという結果であった。「授業の予習・復習に週何時間費やしたか」という問いでは、「しなかった」、または「1時間未満」と回答した学生が69%（約39人中27人）であった。保健学研究科では社会人が多く予習・復習の時間を確保することが困難であるかもしれないが、自主学習の時間が少ないことが理解度の低さにつながっている可能性がある。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 各科目シラバスに記載の「授業時間外学修情報」をよく確認するよう、履修登録案内時に学生へ周知した。また、可能な限り事前にLMSへ授業資料を掲載し、予習・復習に活用できるように改善した。 前年度からの課題について、学生からのオンライン希望の意見を受け、オンライン受講を可とした授業もあり、令和5年度には学生から「ありがたい」という意見があった。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 前年度からの変更点はなく、本アンケート結果に関する学生と教員との懇談会を学科単位で開催し、意見交換を実施、それらを踏まえて類・学科内での点検を行った。 アンケート結果について、この授業のシラバスを予習、復習などに活用したのアンケート項目で、全学年においてシラバスをほとんど見なかったと回答した学生の割合が40%以上であった。</p>
	<p>【課題】 シラバスの利用率が低いこと。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 シラバスの重要性や活用方法を初回授業やオリエンテーションで強調し、学生に理解してもらう。 シラバスを活用した予習・復習の重要性を学生に認識させ、具体的な活用方法を示す。シラバスに基づく学習計画の立て方や、シラバスに記載された参考文献の紹介などを行う。 シラバスの存在やその活用方法について、学生に繰り返し周知する。授業内での定期的なリマインダーや、掲示板、メールなどを活用して働きかけをおこなっていく。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	R5.12.5	7名	15名	教養教育について
共同教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	R6.1.31	6名	30名	学習環境、授業内容等
	大学院での学修に関する意見聴取（教職リーダーコース）	R6.3.1	4名 （教務部会）	13名 （M1, M2 全員対象）	課題研究、実習、大学生生活全般
	院生との懇談会（授業実践開発コース）	R6.3.23	5名	23名 （M1及びM2）	課題研究、実習、大学生生活全般
	院生との懇談会（特別支援教育実践開発コース）	R6.2.10	8名	5名（M1及びM2）	課題研究、実習、大学生生活全般
情報学部 社会情報学部	学部長との懇談会	R5.11.1	10名	11名	学部長と学部学生との懇談
社会情報学研究科	研究科長との懇談会	R5.12.22	5名	6名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	令和5年度前期教職員と医学科学友会による懇談会	R5.9.27	23名	10名	教職員と学生間の意見交換
	令和5年度後期教職員と医学科学友会による懇談会	R6.2.15	21名	20名	教職員と学生間の意見交換
医学部 保健学科	令和5年度第1回 群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会	R5.10.3	29名	16名	教員や事務部職員等と学生が授業内容、本学の設備等について意見交換を行う。
	令和5年度第2回 群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会	R6.1.25	22名	10名	教員や事務部職員等と学生が授業内容、本学の設備等について意見交換を行う。
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	保健学研究科懇談会	R5.9.4	5名	10名	入試制度、カリキュラム、広報等についての意見収集

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
理工学部 理工学府	授業アンケート等に関する学生と教員との懇談会（環境創生理工学科社会基盤・防災コース4年生, 土木環境プログラム3年生）	R5.7.13	教員4名	34名	メールで開催案内を送信し, 事前にGoogleFormで質問受付, 当日に教員が回答
	授業改善アンケート等に関する学生懇談会（電子情報理工学科情報科学コース）	R5.7.26	教員3名	49名	Google Forms を使って事前に授業に関する意見・要望を収集した。さらに, 懇談会当日に参加者から LiveQ (https://web.liveq.page/ja/) を通じて意見や質問をリアルタイムに匿名で受け付け, 教務委員が回答した。
	授業改善アンケートに係る学生との懇談会（電子・機械類3年生）	R5.11.24	教員10名	190名	三週間程前から, 開催について学生へ連絡をし, google フォームで意見収集を行った。実施時間までに合計で2件の質問, 要望が寄せられた。
	授業改善アンケートに係る学生との懇談会（電子・機械類3年生）	R5.12.5	教員8名	199名	1ヶ月程前から, 開催について学生へ連絡をし, google フォームで意見収集を行った。実施時間までに合計で13件の質問, 要望が寄せられた。
	授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会（物質）・環境類 応用化学	R6.2.9	教員1名	47名	授業改善のためのアンケートについて（対象は3年生のみ）, 教務システムにあるアンケート結果を各授業の

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
	プログラム3年生)				担当教員に確認し、その後、集計結果を依頼した。その後、「授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会」を対面で開催し、アンケート集計結果と集計結果に対する教員の回答と教員の授業への取り組みに関する説明を行った。
	授業改授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会（物質・環境類2年生）	R6.2.13	教員5名	234名	授業改善のためのアンケートについて（対象は2年生のみ）、教務システムにあるアンケート結果を各授業の担当教員に確認し、その後、集計結果を依頼した。その後、「授業改善アンケートに関わる学生と教員との懇談会」をオンライン開催し、アンケート集計結果と集計結果に対する教員の回答と教員の授業への取り組みに関する説明を行った。
	授業改授業改善アンケートに関する学生との懇談会（食品工学プログラム3年生）	R6.2.13	教員5名	65名	3年生前期に開講された3科目の食品プログラム必修科目（食品工学演習Ⅰ, 生物工学, 高分子科学）を選び、学生の授業アンケートに対して担当授業教員が回答を行った。

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
	授業改善アンケートに伴う学生との懇談会（材料科学・化学システム工学プログラム3年生）	R6.2.14	教員 10名	72名	3年前期に開講されている以下の10教科について、「回答者数」、「各アンケートの集計結果」、「良かった点・改善してほしい点、希望する点」とそれに対する担当教員の回答などを1教科あたり7分間で報告した。
	大学院理工学府長と学生との懇談会	R5.12.26	教員 4名 事務職員 10名	15名	進学・大学の魅力・授業・他大学との比較・要望等、教育に関する学生の意見聴取を主とした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【実施概要】 全学部の新入生が参加し、懇談形式で主に学生からの意見を聞くかたちで実施した。学生の率直な意見を大学（学長はじめ執行部）が聞く貴重な機会となった。懇談内容については資料⑤のとおり。</p> <p>【課題】 履修したい科目（選択）が、必修科目と被っている、キャンパス間（荒牧と昭和）の移動時間があるため履修できない。</p> <p>【具体的な改善事例】 選択科目について、全学部が履修できる時間帯に可能な限り開講してもらうように各学部（担当教員）へ教養教育部会を通じて依頼する。また、時間帯に開講している必修科目の開講時間帯の移動の検討を依頼する。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>① 学部においては、前年度から対面開催を復活し、カリキュラム、遠隔授業、設備等について要望があり、意見交換を行った。</p> <p>② 大学院においては、授業、課題研究、実習、課題研究支援金等、学生生活全般について意見聴取を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>① 学部において、以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土日等に集中講義が多いことが負担になっている。 ・教職特別演習のような授業で、宇大群大の同専攻との関わりが欲しい。 ・屋外照明を設置・増設してほしい。 <p>② 大学院において、教職リーダーコースの意見聴取では、以下の課題が明らかになった。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に後期授業も登録するため、授業に参加してから受講の決定ができない。 ・研究先進校の授業参観や、NITS 研修といった学外研修にももう少し参加したかった ・大学外の実習やフィールドワークでは実践を中心とした学びの機会があるとよい <p>【具体的な改善事例】</p> <p>① 学部において、集中講義の日程を見直すように教務委員会等で報告を行っている。</p> <p>② 大学院において、MI の実習や実地研修の充実については、NITS 研修等など院生の希望を尊重して進めることとした。また授業時間を考慮しつつ実習日（原則木曜）以外にも実習を行える余地を広げた。</p>
情報学部 社会情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>情報学部は令和3年度に新設された学部であり1～3年次生のみであるため、社会情報学部4年生と合同で、対面で懇談会を開催した。例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当教員からの声掛けを行った。</p> <p>【課題】</p> <p>7～8時限に大学に来ると、駐車場がいっぱいで停められないため、駐車スペースを増やして欲しいと要望があった。</p> <p>また、10号館新棟西側にあるドアは内側からのみ開けられる仕様のため、駐車場からの出入りに使用し教室へのアクセスを良くしたいとの要望があった。</p> <p>学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>実際に駐車スペースを増設することは困難であるため、時間に余裕をもって早めに大学に来よう説明した。集中を避けるため10号館に隣接しない駐車場も案内し、今後、多くの学生が困っているとの声が上がれば、施設運営部へ要望を伝える予定である。</p> <p>また、10号館新棟西側のドアは、懇談会開催時には既に電子錠により一定の時間帯において出入りが可能となっており、強風により急にドアが閉まることがあるため注意喚起の貼り紙をしている。風が大量に入ることによって枯れ葉などが建物内に散乱する場合があります、積極的に学生には使用可能であることを周知していない。</p>
社会情報学研究科	<p>【課題】</p> <p>社会人である大学院生から、勤務先との都合上、翌年度の時間割を早めに公表して欲しいと要望があった。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>前令和5年度に、令和6年4月付けの情報学研究科修士課程設置が決定したことや急な教員の異動などの影響で、社会情報学研究科及び理工学府の読替科目の確認、リカレント教育に対応するための夜間開講科目の調整、非常勤講師の探索などを、情報学研究科設置準備室会議教務専門部会で行い時間を要した。令和7年度分に関しては、今年度立ち上がった情報学研究科学務委員会において、委員の役割分担として時間割担当を決め、早めに調整を行う。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】</p> <p>学友会及び学生と教職員の意見交換の場を設け、日頃の授業や学修環境について、貴重な意見交換の場となった。多方向からの意見を聞ける良い機会となった。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>【課題】 学友会による授業アンケート（1.に記載）及び施設等に対するアンケートの内容を踏まえ、各教職員が丁寧に対応し、今後の授業のあり方や学習環境等について、意見交換を行った。 臨床実習における病棟へのノートPCおよびタブレット持ち込み禁止の解除についての要望、Wi-Fi環境の整備についての要望、休暇期間を考慮したカリキュラム編成についての要望があった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 懇談会を踏まえ、授業関係については、教務部会及びカリキュラム評価委員会・検討委員会などで継続的に検討を行う。情報機器の持ち込み禁止解除については既に検討を開始している。Wi-Fi環境についても原因の究明と対策を実施した。</p>
医学部 保健学科	<p>【実施概要】 授業内容や、教室等の設備の状況や教務システム等について、教職員と学生で意見交換を行った。学友会が実施したアンケートによると、現在のカリキュラムについては、肯定的な意見（満足及びやや満足）が90%弱であったことから、学生から概ね肯定的な評価を得た。また、講義室や設備については肯定的な意見（満足及びやや満足）が約90%あることから、こちらについても学生から概ね肯定的な評価を得た。その一方、駐車場の環境について、利用している学生のうち約半数が不満を抱えている結果となった。</p> <p>【課題】 学生用駐車場が不足していること、駐車できる学生の選考基準が不明瞭であることが確認された。</p> <p>【具体的な改善事例】 学生用駐車場は早期に増設することは非常に困難であることから、まずは学生用の駐車場の確保を長期スパンで検討を行っていくこととする。また、駐車できる学生の選考基準については学友会で検討することになった。</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 前年度に引き続き、夕方よりオンラインで実施した。 学年、領域、社会人、留学生等できるだけ異なる立場の学生に声をかけ参加してもらった。 カリキュラム、修了要件、入試問題については大きな不満はないという意見が大多数であった。</p> <p>【課題】 留学生向けの案内が不足しているという意見があった。また、大学院説明会の内容の充実も課題ではあるが、そもそも実施していることを知らなかったという学生が多かったため、周知方法の工夫が必要である。</p> <p>【具体的な改善事例】 前年度は参加者数が少なかったため、令和5年度は実施時期を2月から9月に変更し、社会人が参加しやすいよう、開始時間も17時から18時に変更した。指導教員からも呼びかけてもらった結果、参加者数が4名から10名と増加した。また、前年度からの課題であった、説明会でのより詳細な情報提供について、令和5年度は修了後の進路について情報を追加したところ、「学部卒と大学院卒の就職先の違いが有益な情報であった。」という意見があった。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>留学生向けの情報について、英語版履修の手引を作成、後日配布すること、事務で個別に履修相談を受け付けたり、履修科目について過不足の連絡をしていることを伝え、不安の解消を図った。加えて、入試概要や経費についての英語版の動画を作成した。</p> <p>大学院説明会の周知については、研究科ホームページに「大学院説明会」ページを追加し、トップページにおいてもお知らせすることとした。「ポスターを学内で見かけた記憶がない」という意見を受け、今後はポスターを見やすく目立つ色で作成し、掲示場所や枚数を増やすこととした。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) GoogleFormなどを活用して質問がしやすい方法で学生からの率直な意見を引き出し、回答について教員からフィードバックした。 (大学院理工学府長と学生との懇談会) 対面で実施。テーマ(オンライン授業・進学・教育)に沿って学生から意見を聴取して教職員から質問に対する回答をした。</p> <p>【課題】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) すべての学生が懇談会に出席とはならず、出席しない学生がいた。</p> <p>【具体的な改善事例】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) 出席しない学生に対して全員出席させるために、期末試験の終わった後に懇談会を実施するなどを試みた。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第15回全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	R5.10.30	203名	学内外の講師により「生成AIへの対応」をメインテーマ、「シラバスの書き方」をサブテーマに全学のFDとして実施。
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	令和4年度群馬大学ベストティーチャー賞 公開模擬授業	R5.11.26	約100名	教育の質向上のため、令和4年度のベストティーチャー賞 学長賞受賞者3名による公開模擬授業を全学のFDとして実施。 (創基150周年記念事業の一部として実施し、当日は学外者含め入場自由としたため、正確な参加人数は把握できず)
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部	「教員間相互授業研究 Week」 (ピア・レビュー週)	2023.11.13 ～ 2023.11.24	8名	授業改善を目的とした他教員の授業参観
	共同教育学部(教員養成FD活動推進委員会)	附属学校園・公開研究会	2023.6.1 外	36名	附属小学校における公開研究会 外
	共同教育学部(教員養成FD活動推進委員会)	教育実習A,C,Dおよび幼稚園教育実習	2023.8.30 外	8名	附属小の授業参観 外
	共同教育学部(教員養成FD活動推進委員会)	附属小学校・提案授業及び授業研究会、並びに、附属学校園における大	2023.10.17 外	7名	附属小での授業研究、附属中学校での公開授業 外

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
		学教員の公開授業			
	共同教育学部（教員養成FD活動推進委員会）	新任教員FD研修会	2023.5.23 外	4名	共同教育学部の歴史、組織、特色 外
	教育学研究科／群馬県教育委員会	公開シンポジウム 「ぐんまの教師力を高める2023」	2023.11.12	20名	教職大学院を修了した現職教員による、課題研究、課題解決実習、およびその後の実践の話題提供、および大学院教員と県教委指導主事を交えたシンポジウム（対面とオンラインのハイブリッド） （国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会）
	教育学研究科	教職リーダーコースFD	2024.3.29	11名	「教育活動の充実と点検に向けて」専門職学位課程長による話題提供と意見交換
	教育学研究科	授業実践開発コースFD	2024.3.18	19名	授業実践開発コースにおける学生指導（目標・内容・方法） （オンライン）
	教育学研究科	特別支援教育実践開発コースFD	2024.3.18	8名	特別支援教育実践開発コースにおける学生指導（課題研究の内容やそれへの教員の係り方）についての意見交換
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	融合型PBL実施部会	PBL1-FD	R5.9.26	56名	令和5年度前期・後期の各テーマの主担当教員による実施方法等の紹介及び質疑応答
		PBL2-FD	R6.3.6	52名	
			R5.6.28	28名	

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
	社会情報学教育・研究センター	新任教員セミナー・シリーズ	R5.10.25	23名	令和5年度に着任した新任教員の研究紹介（オンライン・オンデマンド）
医学部 医学科	医学科教務部会	新カリキュラム臨床実習に関するFD	R5.9.12	70	新カリキュラムの臨床実習について改善点の説明
	医学科教務部会	新カリキュラム臨床実習に向けたmini-CEX講習会	R5.9.26 R5.9.28	48 45	新カリキュラムの臨床実習で導入するmini-CEXについて説明
	カリキュラム検討委員会	各科目におけるマイルストーン設定に向けたワークショップ	R6.2.6	14	各科目の到達目標にコンピテンシーのマイルストーンを設定する作業を体験していただき、学生評価におけるマイルストーンの意義を理解するとともに、マイルストーンの妥当性を検証
	医学科教務部会	医学教育教授法FD	R6.2.15	95	医学教育分野別評価について
医学部 保健学科	保健学研究科（保健学科との合同開催）	第1回保健学教育FD	R5.6.12	52名	学部教育と大学院教育における学環についての全国の動向を紹介
	保健学科	第2回保健学教育FD	R5.9.25	60名	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施
	保健学科	保健学教育FD（特別開講）	R5.8.22	48名	教学マネジメントについて外部機関が実施した講演を傍聴
医学系研究科	群馬大学大学院医学系研究科医学専攻教務委員会・生命医科	群馬大学大学院医学系FD	R6.3.13	36名	科学的思考法と医療：AIとの付き合い方について

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
	学専攻教務委員会				
保健学研究科	保健学研究科(医学部保健学科との合同開催)	保健学研究科FD研修会	R5.6.12	61名	学部教育と大学院教育における学環についての全国の動向
理工学部 理工学府	理工学部	前期公開授業	R5.6.12 ~7.28	11名	教員相互の公開授業(アンケート回答者43名)
	理工学部	後期公開授業	R5.12.11 ~R6.1.11	4名	教員相互の公開授業(アンケート回答者19名)

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p>【実施概要】 全学FD連続講演会では、急速に発展し教育・研究活動にも大きな影響を与えることが指摘されている「生成AI」をメインテーマとし、群馬県から講師1名を招き、本学共同教育学部及び数理データ科学教育研究センターの講師とともにオンラインのセミナー形式でFDを実施した。注目度の高いテーマであり、多数の教員の参加があっただけでなく、県内の公立4大学からも聴講があった。また、令和4年度の機関別認証評価でも指摘を受けたシラバスについて学内講師が講演した。本講演会の録画データは、Moodleにてオンデマンド教材として学内に公開した。(資料⑥)</p> <p>またベストティーチャー賞の学長賞受賞者による公開模擬授業を全学FDとして、創基150周年記念事業の一部として実施した(資料⑦)。本学教職員に対するFDとしてだけでなく、本学を志望する学生等に対する広報としても実施した。</p>
	<p>【課題】 教員を対象としたFDでは、オンライン開催であっても授業等業務により同時双方向での参加が難しい。オンデマンド配信であれば各教員のタイミングにより視聴してもらえるが、現場開催よりも効果が低いのではという意見もあった。今後どのようにバランスをとって実施するかは検討課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 全学FD連続講演会のテーマやベストティーチャー賞公開模擬授業の実施方法については今後も検討や試行錯誤を続ける。</p> <p>なお、第15回全学FD連続講演会でサブテーマとして実施した「シラバスの書き方」については、録画データを個別に切り出し、教員に次年度シラバスの作成を依頼する際にオンデマンド教材として活用した。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生が教育実習を行うことの意義を体感で</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>きる、自分事として授業実践の有り様を考察する、学生を多面的に理解する、よりよい授業を構想するための機会としている等、有意義なものであった旨の回答を得た。</p> <p>大学院教職リーダーコースでは、令和2年度の認証評価結果をレビューし、指摘点についての対応状況、および今後の指導の課題点等について参加者全員で検討した。授業実践開発コース及び特別支援教育実践開発コースでは、コース内の学生指導について、講座間で情報共有を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>附属小学校の公開授業・研究会に中学校教員の参加がなかったとの記述もあったが、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校間での交流や連携も、「新たな教師の学びの姿」の実現につながる要素の一つとなり得るとの報告があった。</p> <p>大学院において、3コース共通のFDの機会がない点については、以下(3)改善事例に示したように部分的に改善を行ったが、なお課題となっている。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>公開研究会において、ICTの活用、生徒の学習活動、授業デザイン等参考になった点や考えさせられる場面があったとの記述が見受けられた。</p> <p>新任教員FD研修会において、「群馬大学の教育実習の大切な理念」、「附属小・中学校と教育実習のよさ」、「授業づくりの本質」、「共同教育学部として」を学んだとの報告があった。</p> <p>大学院において課題であった、3コース共通のFDについては、昨年度に引き続き「ぐんまの教師力を高める2023」を3コース合同で行っている。また、次年度はシラバスに関するFDを3コース共通で行うよう計画している。</p>
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>令和5年度に初開講となったアクティブラーニング科目「融合型PBL」について、「融合型PBL1」(前期)及び「融合型PBL2」(後期)のそれぞれのテーマを担当教員が、学生のグループ分けの方法や苦労・工夫した点等を紹介し、次学期以降の授業実施の参考とした。当日はオンラインで実施し、教職員用Moodleへ動画を掲載することで全教員が参加・視聴できる形態とした。</p> <p>また、令和5年度に情報学部に着任した新任教員による研究報告及び意見交換を、授業終了後の夕方にオンラインで複数回にわたり実施した。当日参加できなかった教員の希望に応じて、動画を公開した。これにより、多くの教員が参加し、講義の手法等についての見聞を広げ、教育の質向上や授業の改善に結びついた。なお、セミナーの内容としては、青山准教授からはVR技術と人間の感覚の生成について、吉川准教授からは言語学の観点から見た記憶と規範について、これまでの研究成果と今後の研究の展望をそれぞれご説明いただいた。</p> <p>【課題】</p> <p>PBL-FDにおいては、オンデマンドでの参加も可能としていたが、業務の都合上、迅速な対応が困難な教員もいたことから、長期間にわたり繰り返し視聴を呼びかける必要があった。</p> <p>新任教員セミナー・シリーズにおいては、オンラインでの開催に加え、オンデマンド対応の体制も整えていたが、情報学部は教員の研究分野が多岐に渡ることもあり、セミナーの内容が自身の研究や教育に</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>直結しないと判断する場合は、参加に代えて業務を優先する教員が存在するようである。</p> <p>【具体的な改善事例】 PBL-FDの開催日程を早めに決定し、メールや教授会などでアナウンスすることで、当日参加を呼び掛ける。授業期間外で学会・研究会開催時期でもあることから、引き続きオンデマンド対応を行う。視聴締切日を複数回に区切ることで視聴を促す機会を多く設ける。 また、セミナーにおいてもメールや教授会などで開催を早めに、また、自身の研究分野に拘らず参加するよう教員へ周知する。引き続きオンラインにて実施し、参加しやすい環境を整える。リアルタイムで参加できない場合は、オンデマンド対応を行うことを開催前後に周知する。当日参加が難しい教員及び質疑をより深めたい教員への対応として、昨年度・一昨年度の新任教員セミナーの実績を踏まえ、教育・研究に関する教員間の意見交流会の発足を検討する。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 例年実施している医学教育教授法FDに加え、新カリキュラムとなる臨床実習開始に向けたFDを実施した。</p> <p>【結果】 臨床実習に関わる教員の多くが参加したことで、教育及び評価方法についての理解が進んだと考えられる。</p> <p>【課題】 教員の参加率の向上が課題であり、オンデマンド配信の充実を図る等の工夫が必要である。また、教育に関する理解を深める機会を全教員が確実に持つように、学科全体としての参加率だけでなく、教員個別のFD参加状況をモニタしていく必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 新カリキュラムの導入に合わせて臨床実習に関するFDを複数回実施した。「新カリキュラム臨床実習に向けたmini-CEX講習会」、「各科目におけるマイルストーン設定に向けたワークショップ」はワークショップ形式で実施し、より実践的に学べるよう工夫した。</p>
医学部 保健学科	<p>【実施概要】 第1回保健学教育FDでは、令和6年度のパブリックヘルス学環開設に先立ち、学部教育と大学院教育における学環についての全国の動向が紹介され、学環に対する理解を深めた。 (教員参加率 74.2% (70人中52人が参加))</p> <p>第2回保健学教育FDでは、各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促し、自らの教育に対する質保証の主体としての自覚のため、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。 (教員参加率 85.7% (70人中60人が参加))</p> <p>保健学教育FD(特別開講)では、看護学専攻分野別評価に備えて、外部機関が実施した教学マネジメントに関する講演を傍聴し、教学に関する内部質保証を推進するための取り組みについて理解を深めた。(教員参加率 68.5% (70人中48人が参加))</p> <p>【課題】 教育課程専門委員会においてFDの実施状況が報告され、各専攻において社会の変化にあわせて教育方法を工夫する等、継続的に授業の改善に取り組むことが確認された。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>【具体的な改善事例】 FDの内容を踏まえ、各教員が授業方法の工夫、内容成績の改善及び成績評価を付ける際の改善に主体的に取り組んでいる。</p>
医学系研究科	<p>【実施概要】 オンラインではなく対面での開催に変更。教員36名の出席があった。 AIとの最新情報及び付き合い方についての講義があり、今後の大学院教育や診療に有益な情報が得られた。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 令和6年度に開設となるパブリックヘルス学環について、教員の「学環」についての理解を深めるために教務委員長より説明する形で実施した。対面での実施であったが、後日録画配信を行った結果、保健学研究科教員の87%が研修に参加した。 学環の基礎的な知識について知る機会となり、質疑応答も活発に行われた。</p> <p>【課題】 FD研修会の開催時点では、パブリックヘルス学環についての具体的な事項が決まっていなかったこともあり、参加教員の質問に対して回答ができないものもあった。</p> <p>【具体的な改善事例】 パブリックヘルス学環準備委員会で議論されたこと、決定したことを保健学研究科教授会で毎月報告し、教員への周知を行った。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 前年度と変わらず、対面授業での実施となった。 公開授業に参加した教員が前期は11名、後期は4名と参加者が少なかった。</p> <p>【課題】 対面授業となってからはオンライン授業の時より参加者が少なくなっている。また、業務が多忙で、時間が取れないなど、参加できない理由がアンケートから見受けられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 教員が参加しやすい日時を選定するために、事前にアンケートを実施して意見を集める。</p>

4. 学生等への意見調査（在学生、卒業（修了）生、就職先及び保護者など）

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・ 学生支援機構	全学卒業時 アンケート	R5.12 ～R6.3	令和6年3月卒 業者 543 名回答 (前年度 499 名)	学部卒業生を対象 にした、学生生活、 教養教育科目等 についてのアンケート 調査（オンライン）
	全学修了時 アンケート	R5.12 ～R6.3	令和6年3月修 了者 136 名回答 (前年度 289 名)	大学院修了生を対 象にした、研究環境 や進路選択の支援 等についてのアン ケート調査（オン ライン）
	全学学習ふりか えりアンケート	R5.12 ～R6.3	学部生（卒業年 次以外） 1,256 名回答 (前年度 1,420 名)	卒業年次以外の学 部生を対象にした、 1年間の学習内容 についてのアンケ ート調査（オンラ イン）
共同教育学部 教育学研究科	教育実習 A 及び B に関するアン ケート	R5.11	学部3年生・190 名	教育実習の充実度 に関するアンケ ート
	教育に関する現 況調査アンケ ート	R6.3	学部4年生・有 効回答数 40 名	卒業生に対しての 進路、カリキュラム 等に関するアンケ ート
	課題研究報告会 参加者アンケ ート(教職リーダー コース)	R6.2	報告会参加者・ 有効回答数 26 名	教職リーダーコー ス課題研究報告会 の報告内容に関す るアンケート
	教職リーダーコ ース課題研究中 間報告会(1)参 加者アンケート	R5.8	有効回答数 24 名	M1による中間報 告会に関するアン ケート
	教職リーダーコ ース課題研究中 間報告会(2)参 加者アンケート	R6.2	有効回答数 31 名	M1による中間報 告会に関するアン ケート
	課題研究レビュ ー報告会(授業実 践開発コース)	R5.8	報告会参加者・ 有効回答数 15 名	M1による課題研 究レビュー検討会 に関するアンケート
	課題研究計画検 討会(授業実践開 発コース)	R6.2	検討会参加者・ 有効回答数 20 名	M1による課題研 究計画検討会に関 するアンケート

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
	課題研究報告会 (授業実践開発 コース)	R6.2	報告会参加者・ 有効回答数 27 名	M2 による課題研 究報告会に関する アンケート
	教育に関する現 況調査アンケー ト	R6.3	大学院 2 年生・ 有効回答数 7 名	修了生に対しての カリキュラム等に 関するアンケート
情報学部	10 号館増設棟学 生満足度評価ア ンケート	R5.7.13- 24	全情報学部生及 び社会情報学部 生	2023 年 4 月から使用 を開始した 10 号館 増設棟の使い心地 などを学生が評価
社会情報学部 社会情報学研究 科	卒業時アンケー ト	R6.2.10	116 名	学部生としての活 動を総括するアン ケートを実施
	修了時アンケー ト(教育評価アン ケート)	R6.2.17	13 名	大学院生としての 活動を総括するア ンケートを実施
医学部 医学科	令和 5 年度医学 科卒業時アンケ ート	R5.10.27	6 年生・129 名	学部独自の調査項 目をカリキュラム 評価委員会が設定 し、6 年次生を対象 にカリキュラムや 学生生活に関する 満足度等を調査
医学部 保健学科	卒業予定者アン ケート	R5.12.6 ~R6.3.31	令和 5 年度保健 学科卒業予定者 162 名	今後における教育・ 学生支援の充実の ため、卒業予定者 を対象にアンケート を実施した。
医学系研究科	重粒子線医理工 学グローバルリ ーダー養成プロ グラム修了生及 び就職先へのア ンケート	令和 6 年 6 月 (令和 6 年 度の取組 であるが、 参考掲載)	令和 4 年度修了 生 4 名のうち 2 名、令和 4 年度 修了生就職先担 当者 4 名のうち 2 名から回答あ り。	修了生に対しては、 身についたことや、 満足度についてア ンケート調査、就職 先担当者に対して は、修了生の能力、 資質、業務内容等 についてアンケート 調査を実施。
保健学研究科	群馬大学全学修 了時アンケート 調査	R5.12.15 ~ R6.3.31	保健学研究科博 士前期課程及び 博士後期課程修 了予定者(回答 者 9 名)	大学院での研究、カ リキュラム等に関 するアンケート調 査
理工学部 理工学府	2023 年度卒業時 アンケート調査 (理工学部)	R6.1.15 ~ 3.22	学部 4 年次(539 名) 回答数 (456 名)	授業科目や課程に 関する意見や満足 度、進学先等
	2023 年度修了時 アンケート調査 【理工学府博士	R6.1.4 ~3.31	大学院(博士前 期) 2 年次(364 名)	カリキュラムや研 究に関する意見及 び満足度、進路等

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
	前期課程(修士課程)】		回答数(93名)	
	2023年度修了時アンケート調査【理工学府博士後期課程(博士課程)】	R6.1.4～3.31	大学院(博士後期)3年次(46名) 回答数(13名)	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【実施概要】 例年と同様に、学部の「卒業時アンケート」、大学院の「修了時アンケート」及び卒業年次以外の学部生を対象とした「学習ふりかえりアンケート」について、大学教育センター学部(大学院)教務委員会において、設問項目を審議のうえ実施を決定し、教務システムを利用して実施した。(資料⑧～⑪)</p> <p>いずれのアンケートにおいても「学習に対して前向きな姿勢であったこと」(資料⑨卒業時アンケートQ12、15等)や「群馬大学ディプロマポリシーに関連する、「専門的学識・技能の修得」(資料⑨卒業時アンケートQ52、56等)などの経験」については、前年度から継続して安定的な回答を得ることができた。</p> <p>各アンケート結果については全学の教務委員会で検討するとともに、各授業担当教員にフィードバックした。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束以降、対面授業が一般的になったことに影響を受けたためか、自宅での学習時間が減少している傾向がある(資料⑩学習ふりかえりアンケート設問26)。 また、オンラインアンケートについては、回答数が減少傾向にある。学生を対象としたオンラインアンケートが増加傾向にあるため、学生の負担軽減と回収率の向上が継続課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 学習時間の確保については、各学部等の「履修の手引」等に掲載するとともに、各シラバスで時間外学修情報等を充実させ、学生へ意識づけを行っている。 アンケート回収率の向上については、回答期限の1週間前に、対象学生に対して教務システムから回答依頼のメッセージを送信したほか、依頼時等の複数回メッセージ送信を行ったが、特に修了時アンケートでは大きく減少してしまった。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 教育実習に関するアンケートでは、実習の充実度、実習期間の設定、実習A(基礎実習)における経験をB実習(応用実習)へ活用できたかについて、2つの異なる実習を体験した意義について、おおむね9割の学生が肯定的な評価をしている。また、実習校への割り振りの満足度はおおむね8割以上の学生が肯定的な評価をしている。 教育に関する現況調査アンケート(学部4年生)では、カリキュラムや大学で身につけた資質・能力に関する多くの項目で9割以上の学生が肯定的な評価をしている。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>課題研究報告会については、3コース合同で開催し、開会行事の後、コースに分かれて研究発表が行われた。院生や教員、外部の参加者も一定数見られた。</p> <p>教職リーダーコースでは、ディプロマポリシーのねらいを達成しているものとして、高く評価されていた。高評価の理由としては、次のようなことがあげられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究をもとにしている。 ② 勤務校の課題を踏まえた研究と実践である。 ③ 学校全体で取り組んでいる。 ④ 類似の課題を抱える他校にも生かせる内容となっている。 ⑤ 客観的な検証が行われている。 ⑥ 今後の展望までも示されていた。 <p>教育に関する現況調査アンケート（大学院2年生）では、多くの項目で学生がおおむね肯定的な評価をしている。</p>
	<p>【課題】</p> <p>教育実習に関するアンケートでは、全体の割合に比べればわずかであるが、実習期間設定と実習校の割り振りについては改善すべきと評価された部分である。関連し、実習を受け入れる学校について、様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきており、今後の安定した受け入れについて努力する必要がある。</p> <p>教育に関する現況調査アンケート（学部4年生）では、共同教育学部になってカリキュラム変更により、必修科目が増える等により、授業の負担が多いという意見が見られた。</p> <p>大学院の教職リーダーコースの報告会では、以下の課題が指摘された。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究について <ul style="list-style-type: none"> ○実践しているが研究として薄いものもみられた。 ○児童生徒や教員の顔が映っているプレゼンがいくつかあった (2) 報告会の日程について <ul style="list-style-type: none"> ○他コースの発表も見なかった (3) 本コースの独自性をアピールすることについて <ul style="list-style-type: none"> ○手立ての中には、既に他の学校で実践されていることもあった。今後はより具体的な実践方法や研究の独自性を前面にまとめられるとよい。 ○リーダーコースとしての研究スタイルについて、研究パラダイムを整理して公刊するとよい。
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>実習期間等については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き教育実習委員会において検討を続ける。</p> <p>令和6年度は学部生の負担になっていた卒業要件単位数を155単位から140単位まで減少させ、科目を見直すこと等により、カリキュラム改編を行った。</p> <p>「教職実践演習」「教職実践基礎演習」の一環として教職大学院報告会を公開する予定である。</p> <p>また、教職員の負担感への配慮については、現職院生の実習単位の一部免除制度を令和6年度から導入することで準備を進めている。</p>
情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>教務委員会及び学生委員会主導により、Google フォームを使用しアンケートを実施した。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>対象となる7教室の「雰囲気、明るさ、居心地の良さ」については、「とても良い」、「良い」と答えた学生が8割以上であり、新しい建物の満足度は総じて高かった。</p> <p>【課題】 1階に設置されたジェンダーレストイレについて、6割以上が「使用したことが無い」と回答しており、「入りづらい」というコメントが多く見られた。 また、空きスペースの有効活用について要望があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 トイレの存在自体に気付いていない学生もいたが、調査の実施により認識されたこともあり、しばらく様子を見ることとした。また、アンケート結果を施設運営部へ情報共有し、検討を依頼した。 令和5年度前期に8号館大教室を教員研究室やグループ研究室に改修したこと、後期には元理工学部教員が桐生キャンパスから荒牧キャンパスへの研究室移転を完了したことで、空きスペースの状況が把握できるようになった。増築棟（新棟）1階及び4～6階のコラボレーションスペースを学生が使用できるように整備を行っているところである。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】 卒業時アンケートでは、入学当初と比べて身についた学修効果として、「社会や人間を深く理解するための専門知識を身に付けることができたか」、「学際的・総合的に知識を身に付けることができたか」、「諸問題を自ら発見し、論理的に分析・考察できる力が身についたか」との質問に対し、いずれも、「とても身についた」又は「身についた」との回答が90%以上であったことから、得られた知識に自信を持って社会へ出たことが推測される。 修了時アンケートでは、「学生生活（研究生活）は充実したものでしたか」との質問に対し、「とても充実」又は「充実」と回答した大学院生は、未回答者を除くと前年度と同様に100%であったことから、学生生活（研究生活）に満足し、高く評価していることが伺われた。</p> <p>【課題】 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」、「ほとんど行われていなかった」、「わからない」と回答した社会情報学部生が約45.5%であり、前年度の45.4%とほぼ変わりなかった。令和5年度途中で令和6年4月に情報学研究科が設置されることが決定し、社会情報学研究科は令和6年度入学から募集を停止した。新研究科では定員増となり、積極的な広報活動を進める必要があると考えられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 情報学研究科への進学や入試情報は、令和5年度には情報学研究科設置準備室入学試験専門部会にて情報学部3年生に対する就職・進学説明会や主として4年生を対象とした大学院説明会を実施した。また、情報学部では、大学院進学を志望する4年生が大学院科目を先行して履修する制度を制定し、進学後には当該科目の修得単位を認めることで、研究の時間を確保できる形態とした。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 群馬県出身者の県内就職率が前年より3%、県外出身者の県内就職率が前年より6%アップした。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>学習・生活支援や施設についての満足度が上昇した。カリキュラム（講義・実習等）の調査項目について、特にカリキュラム及び達成度・アウトカムについては、90%以上が満足との高評価であり前年度の傾向とさほど変わらなかった。</p> <p>【課題】 試験の難しさや進級・合格基準への不満が多く挙げられた。施設面では、6年生全員分の自習室の確保やネット環境での不便性及び学生駐車場の確保の要望などの意見は継続して散見され引き続きの課題である。また、就職活動への考慮、課外活動の充実を望む意見があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 ネット環境について原因の究明と対策を実施した。</p>
医学部 保健学科	<p>【実施概要】 平成29年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。 保健学科での学習により「顕在的・潜在的課題に対し、幅広い教養と科学的根拠に基づく適切な判断力と、問題解決能力を持つ。」「チーム医療において、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係を築き役割を發揮できる。」等の目標をどれくらい達成できたかを問う質問においては、「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計で、いずれも8割を超えていることから、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p> <p>【課題】 「15.カリキュラム・科目の順序は適切であったか」との問いに対して、あまり思わない、まったくそう思わないの割合が比較的高い状況になっている。新カリキュラムで学んだ令和7年度以降の学生のアンケートも同様の傾向になるのか注視していく必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 教育課程専門委員会においてアンケート結果が共有され、上記課題があることから、必要に応じて将来のカリキュラムの見直しも含めて検討を行っていく可能性があることが確認された。</p>
医学系研究科	<p>【実施概要】 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム令和4年度修了生2名と令和4年度修了生の就職先担当者2名からアンケートがあった。修了生から、本プログラムを通してインターナショナルに通用する研究全体のハンドリング能力を養成できた。重粒子線医学の知識を得るだけでなく、語学力やプレゼンテーション能力も身に付けることができ、有意義であったとの意見があった。就職先へのアンケートでは、身につけている能力として「専門能力」「問題解決能力」と回答があり、一定の評価を得ているものと判断できる。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 「カリキュラムを全体としてどう評価するか」という問いに対し、「おおむね十分である」「十分である」との回答が100%であった。「幅広く豊かな学識を身に付けた」に対して「とてもそう思う」「まあそう</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>思う」との回答も 100%であり、保健学研究科の教育および研究に対する評価は肯定的であるといえる。</p> <p>【課題】 「大学院での研究において、実社会との接点を感じることができた」と感じた経験について「あまり印象に残っていない」と回答した学生が9人中5人であった。特に、社会人ではない一般学生に実社会との接点を感じてもらえる機会が必要である。 また、前年度に比べ回答者数がかなり少なくなってしまった。</p> <p>【具体的な改善事例】 特定の分野ではあるが、一般企業との連携授業を一科目、令和6年度に開設する。また、国内外で活躍している様々な職種の医療関係者を講演者として招き、大学院生へもホームページやメール、ポスター掲示等で案内していく。 回答者数の増加のため、アンケート実施期間内に該当者へメール等で数回、回答依頼を行う。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 卒業生からの声を今後の理工学部の運営に反映させるため、毎年アンケート調査を実施している。 理工学部アンケート調査における卒業後の進路について、企業への就職が33.92%、大学院等の進学が57.27%と全体の半数が大学院へ進学をしている。卒業研究を行ったことが技術者、研究者としての生き方や考え方、問題解決への意欲などに良い影響を与えているかの設問については、94.19%が与えていると回答があり、役立っていることが伺える。教務システムのポートフォリオを役立たせることができたかの設問では、74.78%ができていないと回答した。</p> <p>【課題】 教務システムのポートフォリオをもっと活用して役立ててもらおう。</p> <p>【具体的な改善事例】 ポートフォリオの役割、メリット等、学生に理解してもらうよう具体的な活用例を示して、教務システムから学生に周知する。</p> <p>(参考：役割等) ポートフォリオのメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己PRの強化：面接やプレゼンテーションの際に、自分の強みや成果を視覚的にアピールできます。 ・スキルの整理：自分のスキルセットや経験を整理し、次に学ぶべきことを明確にする手助けになります。 ・成長の追跡：学びの進捗を継続的に追跡できるため、達成感を感じやすくなります。

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・ 学生支援機構	令和5年度 第4回 経営協議会	R5.12.27	今後の教養教育の在り方について、主に外部有識者で構成される経営協議会で意見交換を行った。
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A、C、D運 営協議会、教育実習B 運営協議会	R5.7.26 R5.6.28	教育実習前の意見交換（教育委員会、実習校）
	教育実習A、C、D研 究協議会	R5.11.29	教育実習後の意見交換（教育委員会、実習校）
	教育実習B研究協議 会	R5.11.29	教育実習に関する意見交換（教育委員会、実習校）
	教職大学院教育課程 連携協議会	R6.3.5	教職大学院における教育課程に関する意見交換（教育委員会、公立学校長、公立学校教諭等）
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	該当なし		
医学部 医学科	カリキュラム評価委 員会	R6.3.7	他大学教員、群馬県関係者を外部委員に委嘱し、カリキュラムに関する情報共有や意見交換を行っている。
医学部 保健学科	スーパーバイザー会 議	R5.7.7	臨床実習の運営等についての協議
	リハビリテーション 教育育評価機構 教育評価認定審査	R5.11.20	理学療法学専攻がリハビリテーション教育プログラムについての外部評価を受審（受審は5年毎）
	リハビリテーション 教育育評価機構 教育評価認定審査	R5.12.5	作業療法学専攻がリハビリテーション教育プログラムについての外部評価を受審（受審は5年毎）
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	該当なし		
理工学部 理工学府	学外委員による外部 評価委員会	R5.9.28 （第1回委 員会） R5.12.20 （第2回委 員会）	概要：学外の委員（企業、大学、高専など）によるカリキュラム等に対する評価・意見交換。2023年度は、4年ぶりに外部評価委員を群馬大学桐生キャンパスにお招きし、対面での実地見学を行った。（機械知能システム理工学科・機械プログラム）

(2) 意見等に基づく改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
<p>大学教育・ 学生支援機構</p>	<p>【意見・指摘事項等】 委員から学生が教養教育を学ぶことの大切さ等について意見があった。寄せられた意見については、全学の教務委員会において共有した。(資料⑫、⑬)</p> <p>【具体的な改善事例】 委員からは教養教育の充実等について意見があり、引き続き各所で検討を行う。また、ある委員からは「行政、学校関係者、医学、企業、金融など現場の方に客員教授として担当していただくと、学生の目つきが変わる、ハッと驚くような話をされると思う」という意見があった。現在本学では「ぐんま未来学」や「学びのリテラシー(2)」などの授業でゲスト講師という形で外部講師を招いて実践しているが、本意見を踏まえてそのような授業を増やしていくことも検討する。自治体や県内外で活躍する様々な分野の識者を招いた講義を行い、学生達の地域での活躍を促し、可能性を開拓するような試みにつなげていきたい。</p> <p>なお令和6年度は、本学が3年に一度実施している学外者からの意見聴取を実施する予定である。</p>
<p>共同教育学部 教育学研究科</p>	<p>【意見・指摘事項等】 実習校から、実習生の授業の進め方や生徒指導等について、それぞれ意見・感想が述べられた。 教職大学院教育課程連携協議会では、各コースからカリキュラムや院生指導の状況についての概要説明があった後、教職大学院の教育課程の全般について、意見交換が行われた。また、令和6年度から導入予定の現職教員の实習免除について報告があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習校からの意見を、教育実習委員会において検討し、実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。 現職院生の多忙化解消については、一定の教職経験を有する現職院生について実習科目の一部を免除する制度を令和6年度から導入することで、規定等の整備を進めた。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【意見・指摘事項等】 昨年度成績分布に偏りがあった医系の人間学等の科目について、分布が妥当な範囲に落ち着いた。他方で、Sが3分の2程度とずいぶん多いという印象を受けたとの意見をいただいた科目があった。 PDCAサイクルを回すうえで卒業時アンケートはとても重要だが、現在のアンケートは調査項目がアウトカムのレベルであるためカリキュラムのどの部分が弱いかの判定がし難い。コンピテンシーのレベルでアンケートを取ることが望ましい。回答項目がとて多くなるため学生の負担が増えるが、確実な改善のためのデータとして活用できるのではないかと。 委員会で出された意見について、県政の参考とし、引き続き協力していきたいとの意見があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 今回の議論を踏まえて、卒業時アンケートの内容を検討することとし、継続審議とした。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【意見・指摘事項等】</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>理学療法学専攻及び作業療法学専攻においては、実習済施設並びに実習予定施設の実習指導者と意見交換を行うため、スーパーバイザー会議を実施した。</p> <p>また、リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査があり、事前に提出した書面調査書類に基づき実地調査を受審したところ、リハビリテーション関連職種の教育・養成の質の向上に高く貢献していることを評価され、リハビリテーション教育に必要な施設基準及びカリキュラムを提供、実施できる養成施設として認められた。</p> <p>【具体的な改善事例】 リハビリテーション分野での教員の教育力を更に高めるため、臨地実習現場との連携を深めた。</p>
理工学部 理工学府	<p>【意見・指摘事項等】 3年目を迎えた改組カリキュラムの説明と、それに対する意見・助言を頂いた。実習工場におけるヒヤリハット事例収集と事故防止の啓蒙教育を続けられたいという意見、実験・実習におけるレポート指導を評価する意見、低学年で基礎を幅広く学ばせ高学年で専門を深く学ばせるとい改組理念は社会のニーズに沿ったものであるという意見、3年次プログラム分けの基準に対する質問、など様々なご意見を頂いた。また ChatGPT に代表される AI 時代の教育の在り方についても幅広い意見交換がなされた。</p> <p>【具体的な改善事例】 (学外委員による外部評価委員会) 産業界，研究機関，教育機関のメンバーかならなる外部評価委員会の意見は，社会が求める人材像を知る手掛かりとして大変重要である。理念を持った改組であるが，2年次の基礎科目が選択科目となるなど電子と機械が融合することによる難しさも残されている。頂いた意見を新カリキュラム完成へ向けた参考とし，継続的な教育改善に活かすこととなった。</p>

6. その他 特記事項

特になし

7. 根拠資料

(「授業評価のアンケート用紙、集計結果」、「学生との懇談会の配付資料・記録」、「FD活動の資料」、「意見調査票、集計結果」等)

学部等	根拠資料
大学教育・ 学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和5年度前期授業評価アンケート(学びのリテラシー(1))集計表 ② 令和5年度前期授業評価アンケート(データ・サイエンス)集計表 ③ 令和5年度前期授業評価アンケート(学びのリテラシー(2))集計表 ④ 令和5年度 授業改善アンケート「学びのリテラシー(1)」集計表 ⑤ 令和5年度学長と学生との懇談会記録 ⑥ 第15回 全学FD連続講演会(チラシ) ⑦ ベストティーチャー賞・ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャーチラシ ⑧ 令和5年度末実施各種学生アンケート結果のポイント ⑨ 令和5卒業時アンケート ⑩ 令和5修了時アンケート ⑪ 令和5学習ふりかえりアンケート ⑫ 経営協議会資料 ⑬ 経営協議会委員意見の反映(第IV期)
共同教育学部 教育学研究科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和5年度 前期 授業評価アンケート WEB画面 3. 授業評価アンケート結果に基づく授業改善(教員対象)集計結果 4. 令和5年度 学部長との懇談会 要望のまとめ 5. 教職リーダーコース 大学院での学修に関する意見聴取 結果 6. 教員間相互授業研究Week(ピア・レビュー週)実施要項 7. 附属学園・公開研究会 報告書 8. 教育実習A, C, Dおよび幼稚園実習 報告書 9. 附属小学校・提案授業及び授業研究会 報告書 10. 附属学校園における大学教員の公開授業 報告書 11. 新任教員FD研修会 報告書 12. 教職リーダーコース 公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める2023」ウェブページ抜粋 13. 令和5年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート 集計結果 14. 教育に関する現況調査アンケート(学部4年生・卒業予定者用) 集計結果 15. 教職リーダーコース M2 課題研究報告会 アンケート 集計結果 16. 教職リーダーコース 課題研究中間報告会(1)参加者アンケート 集計結果 17. 教職リーダーコース 課題研究中間報告会(2)参加者アンケート 集計結果 18. 授業実践開発コース 課題研究レビュー検討会に関するアンケート 集計結果 19. 授業実践開発コース 課題研究計画検討会に関するアンケート 集計結果 20. 授業実践開発コース 課題研究報告会に関するアンケート 集計結果 21. 教育に関する現況調査アンケート(大学院2年生用) 集計結果

学部等	根拠資料
	22. 教育実習A, C, D運営協議会 資料 (抜粋) 23. 教育実習B運営協議会 資料 (抜粋) 24. 教育実習A, C, D研究協議会 資料 (抜粋) 25. 教育実習B研究協議会 資料 (抜粋) 26. 令和5年度 群馬大学教職大学院教育課程連携協議会 議事録
情報学部	1. 令和5年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和5年度 学部長との懇談会 案内・記録 3. 令和5年度 融合型PBL-FD次第 4. 令和5年度 FD「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧 5. 10号館増設棟 学生満足度評価アンケート集計結果
社会情報学部 社会情報学研究科	1. 令和5年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学部) 2. 令和5年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学研究科) 3. 令和5年度 学部長との懇談会 案内・記録 (再掲) 4. 令和5年度 研究科長との懇談会 案内・記録 5. 令和5年度 FD「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧 (再掲) 6. 10号館増設棟学生満足度評価アンケート集計結果 (再掲) 7. 令和5年度 卒業時アンケート 設問・集計結果 (社会情報学部) 8. 令和5年度 修了時アンケート (教育評価アンケート) 設問・集計結果 (社会情報学研究科)
医学部 医学科	1. 教職員と医学科学友会との懇談会資料 (令和5年度前期) 2. 教職員と医学科学友会との懇談会資料 (令和5年度後期) 3. 医学科 FD 実施状況 4. 新カリキュラム臨床実習に関する FD 5. mini-CEX 臨床実習の評価に関する FD 6. 2023 医学教育教授法 FD 資料 7. 医学科卒業時アンケート結果 8. 令和5年度医学科カリキュラム評価委員会議事要旨
医学部 保健学科	1. 令和5年度 保健学科授業評価アンケート集計結果 2. 令和5年度 保健学科学友会アンケート実施結果 3. 令和5年度 保健学科教育FD 4. 令和5年度 保健学科卒業予定者アンケート集計結果 5. 令和5年度 スーパーバイザー会議次第 6. 教育評価認定審査
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度医学系研究科授業評価アンケート (前期) まとめ ・2023年度医学系研究科授業評価アンケート (後期) まとめ ・群馬大学大学院医学系研究科 FD 次第 ・修了生へのアンケート回答 (対象: 2022年度修了生) ・就職先へのアンケート回答 (対象: 2022年度修了生)
保健学研究科	1. 令和5年度保健学研究科授業評価アンケート集計結果 2. 令和5年度保健学研究科懇談会 議事録 3. 令和5年度保健学研究科懇談会 院生参加者名簿 (氏名等削除) 4. 令和5年度保健学研究科 FD 研修会次第 5. 令和5年度群馬大学大学院全学修了時アンケート集計結果 6. 連携授業開設決定報告書

学部等	根拠資料
理工学部 理工学府	①「授業改善アンケート」 ②「授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会報告書」 「理工学府長と学生との懇談会について」 ③「FD活動（公開授業に関するアンケート等）」 ④「卒業・修了時アンケート調査」

令和5年度 授業評価アンケート 実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目数	回収数	実施科目数	回収数	実施科目数	回収数
教養教育科目	学びのリテラシー データ・サイエンス	79	2,263	29	1,629	50	634
	小 計	79	2,263	29	1,629	50	634
専門教育科目	共同教育学部	802	4,321	402	2,656	400	1,665
	情報学部	194	3,490	94	2,168	100	1,322
	社会情報学部	14	2	9	2	5	0
	医学部医学科	80	3,275	47	1,499	33	1,776
	医学部保健学科	269	5,393	145	3,267	124	2,126
	理工学部	340	9,472	160	4,659	180	4,813
	小 計	1,699	25,953	857	14,251	842	11,702
大 学 院	教育学研究科	154	310	77	207	77	103
	社会情報学研究科	51	53	25	11	26	42
	医学系研究科	28	142	14	100	14	42
	保健学研究科	3	39	3	39		
	理工学府	126	765	56	253	70	512
	小 計	362	1,309	175	610	187	699
合 計		2,140 (2,335)	29,525 (33,546)	1,061 (1,148)	16,490 (19,836)	1,079 (1,187)	13,035 (13,710)

※ 合計行 下段 () 書きは昨年度の実績。